

# ジョージ 2 世の戴冠式アンセム

—— 英国王室の栄華を象徴する宮廷音楽の傑作 ——

## 戴冠式とは？ アンセムとは？

戴冠式とは国王の即位の際に行われる式典のことです。イギリスの場合、歴代の国王の戴冠式はイギリス国教会の総本山ウェストミンスター寺院で盛大に執り行われてきました。国王は、「法とイギリス国教会の教義を守ること」を神に誓い、国教会の首長から装飾品や冠を授けられることで、正式に国王として認められるのです。そして、こうした荘厳な儀式を彩るかのようにアンセム（礼拝や儀式などで歌われるための音楽）が演奏されます。

## 作曲に至る経緯

本日私たちが演奏いたしますヘンデルの戴冠式アンセムは、1727年にイギリス国王ジョージ 2 世の戴冠式のために作曲されたものです。王室に仕えていた音楽家は他にいましたが、ヘンデルのオペラが貴族やジョージ 2 世の王妃キャロラインから人気を博していたため、ヘンデルに作曲依頼がなされたといわれます。

## 曲の構成と歌詞

7 部合唱（ソプラノ 1・2、アルト 1・2、テナー、ベース 1・2）とオーボエ、ファゴット、トランペット、ティンパニ、ヴァイオリン、ヴィオラなどで演奏され、全部で 4 つの曲からなります。どの曲も、壮麗な響きと生き生きとしたリズムが印象的で、後にヘンデルがオラトリオの作曲家として多くのすばらしい合唱曲を世に送り出すことを予感させるような作品となっています。中でも、第 1 曲の「司祭ザドク」は、1953 年のエリザベス女王の戴冠式に至るまで、後世の国王の戴冠式でも歌われ、現代ではサッカーの UEFA チャンピオンズリーグのテーマ曲にもアレンジされています。

歌詞は、ヘンデルが旧約聖書の「詩篇」（古代イスラエルの詩）、「列王記」（古代イスラエルの王族の歴史）、「イザヤ書」（神のお告げや予言を集めたもの）の中から戴冠式の内容に合わせて選び出したといわれています。

## I. Zadok the Priest（司祭ザドク）

国王に聖油が塗られる儀式の際の歌～国家の繁栄を願う民衆の気持ちを歌う。

カンタベリー大主教が国王に聖油を塗る際に歌われました。なぜ油を塗るのかというと、古代イスラエルで民族の指導者になる人に油（オリーブ油）を注ぐ儀式が行われていたという旧約聖書の記述に由来しています。古代イスラエルでは、オリーブ油が神の霊や豊かさの象徴とされていたのです。

歌詞は「列王記」の中から、古代イスラエルの国王ソロモンが即位の際に司祭ザドクと預言者ナタンから油を注がれたという故事をもとにしています。ソロモン王は非常に賢く、彼の治世で古代イスラエルは大いに繁栄しました。ジョージ 2 世の治世が大いに栄えるようにという願いが込められているといえます。

国王への塗油という荘厳な瞬間を予感させるような前奏が続き、7 つのパートがトランペットとティンパニとともに一斉に力強く歌い出します。その後、拍子は弾むような 3 拍子に変わり、ソロモン王の即位を喜ぶ民衆の姿が歌われます。そして再び 4 拍子に戻り、神の加護がソロモン王にあるようにという民衆の願いを歌います。

### 司祭ザドク

- |   |   |
|---|---|
| ① <i>Zadok the priest<br/>and Nathan, the prophet<br/>anointed Solomon King.</i>                        | ① 司祭ザドクと<br>預言者ナタンは、<br>ソロモンに油を注いで王とした。           |
| ② <i>And all the people rejoiced, and said:</i>   | ② そして、すべての民は喜んで、<br>このように言った。                     |
| ③ <i>God save the King,<br/>Long live the King,<br/>May the King live forever!<br/>Amen. Allelujah!</i> | ③ 「神よ、王を助けたまえ。<br>王様万歳。<br>王よ永遠なれ。アーメン。<br>ハレルヤ。」 |

### 【ザドクとナタンとはどんな人？】



左の絵は、16 世紀にフランドル（今のベルギーあたり）で活躍した画家マールテン・ド・フォスが描いたソロモン王の塗油の模様です。

下の方で両腕を胸に当てているのがソロモン王で、その上で聖油を注ごうとしているのが司祭ザドクです。

ザドクは歴代のイスラエルの王に仕え、預言者（神の言葉を預かって伝える人）であるナタンとともに、ソロモンを王に擁立することに貢献しました。